

「地域課題分野」(平成26年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
感潮区間に適した河川流量連続モニタリングシステムの開発 (研究期間：H26年～H27年)	東京理科大学 二瓶 泰雄	B
<p>＜研究概要＞</p> <p>本研究では、感潮区間に適した流量連続モニタリングシステムの開発と汎用化を試みる。ここでは、一台で流速横断分布計測が可能なH-ADCPによる流速計測技術と力学的内外挿法DIEX法(Dynamic Interpolation and EXtrapolation method)に基づく数値解析技術を融合した流量観測法をベースとする。今年度の具体的な研究開発内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 海水遡上は無いがH-Q関係が成り立たない中川の流量観測基準点(吉川)に本モニタリング手法を適用し、長期連続流量モニタリングを開始する(H26～)。</li> <li>2) 低水時・洪水時にてADCP等を用いた検証用流量観測データを収集し、本手法の精度検証を行い、本手法の流量推定誤差を5%以下とすることを目標とする。</li> <li>3) 引き続き、H-ADCPの設定条件を検討し、本手法の精度向上に努める。特に、DIEX法の流量算出において考えられるモデルパラメータや観測誤差などに不確実性の解析を行い、本手法の高精度化を図る。</li> <li>4) 上述の結果を整理し、研究成果報告書を作成する。</li> </ol>		
<p>＜事後評価コメント＞</p> <p>潮汐の影響で順流・逆流が生じる区間について、河川流量を高水、低水を含めて連続的に観測するシステムを開発し、現地観測で実証されていることから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと言える。</p> <p>しかしながら、開発した観測システムについて、システムの適用範囲・条件、観測誤差を打ち消す特徴を持つ理由やその意味についてもわかりやすく説明することが必要であったと考えられる。</p> <p>今後は、上記に加え、潮汐の影響を受ける区間での河川管理の観点から、例えば日平均流量など一定時間での河川流量の把握及びその精度についても検証するなど研究を進展させるとよい。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い